

第4章 第3次活動計画の基本理念と重点目標

1. 基本理念について

「わたしたちがいつもいきいきと暮らすために」 ～社会的な孤立を生まない、人と人がつながる地域づくりを目指す～

「基本理念」は、第3次活動計画において目指すべき「地域社会像」です。これまで第1次活動計画、第2次活動計画では、「わたしたちがいつもいきいきと暮らすために」を基本理念としましたが、それを踏襲することにしました。

この基本理念は、中野に住む一人ひとりが、高齢になっても、障害があっても、その人らしく地域に住み続けられる、そんな地域をイメージしています。いきいきとした状態は、一人ひとりの個性や生き方が尊重される状態と考えています。活動計画は、この基本理念の達成のために、住民、関係機関・団体、行政が連携・協力する行動計画という側面を持っています。

また、計画においては、基本理念をより具体化するために、「社会的な孤立を生まない、人と人がつながる地域づくりを目指す」という具体的な目標を設定しました。近年は、特に「地縁・血縁・社縁」が希薄化しており、高齢や障害、貧困等様々な理由で社会的に孤立する方が増えてきています。一人ひとりが地域につながりを持ち、困った時に助け合える関係ができるまちを目指します。

2. 重点目標について

基本理念を実現するため、地域住民及び事業者等と社協が具体的な地域福祉活動を展開するために、重点目標を4つ掲げました。この目標は、平成26年度から平成30年度の期間で取り組む重点的な目標です。また、この4つの重点目標は、下記のとおり関係性があり、基本理念の実現を目指しています。

活動計画では、この重点目標ごとに、区民、社協の5年間の取り組みを計画化しました。なお、区民の取り組みには、社協以外の事業者（福祉施設）、ボランティアグループ、NPO団体も含まれています。

重点目標① 多様な交流の場づくりを進める

気軽に声をかけあい、お互いに知り合う場が地域に少なくなり、顔の見える関係がますます薄れています。交流の場を地域のなかに広げていくことを目標に取り組みます。

重点目標② 幅広い層が担い手になる

地域に何かあれば役に立ちたいという人がいますが、実際には活動に参加できていない現状があります。様々な層の住民、また大学生、企業が参加できるように取り組みます。

重点目標③ 困った時に助けあえる地域をつくる

地域と接点のない高齢者、地域とつながりにくい障害者、子育てを一人で抱え込んでしまう母親など、課題を抱えながらSOSを出せずに孤立してしまいがちな方がいざという時に声を出しあい、助け合えるような地域をつくります。

重点目標④ 解決しにくい課題にみんなで取り組む

地域では、様々な福祉制度の対象にならないで困っている方や若い世代の生活保護世帯の増加など、住民、行政、関係機関が連携・協力しないと解決しにくい生活の課題が増えています。新たな取り組みや仕組みをともに考え、解決に取り組めます。

基本理念:わたしたちがいつもいきいきと暮らすために

～社会的な孤立を生まない、人と人がつながる地域づくりを目指す～

